

2024 年度 1Q 決算説明会 主な質疑応答

(2024 年 8 月 7 日開催)

<電子・先端プロダクツ>

Q1：1Q の営業利益の実績が上期の進捗に対して遅れていないか？

A1：球状アルミナなどの半導体・電子部品向け製品の需要が回復基調となるなど、大部分の主力製品で上振れて進捗している。一方、セラミックス基板の販売が想定を下回っているほか、在庫影響や減価償却費の増加によるコスト増加により、全体として予想並みの進捗と考えている。

Q2：球状アルミナの販売が想定を上回っている背景は？

A2：xEV 用途では欧州市場での成長鈍化による客先での在庫調整があるが、半導体用途では GDDR などの最先端半導体パッケージ等で高い放熱性が求められることから、販売が好調に推移している。今後、さらに半導体用途での拡大を見込んでいる。

Q3：アセチレンブラックの足元の需要動向は？タイでの新規製造拠点の立ち上げは予定通りなのか？

A3：高圧ケーブル向けは、足元では欧州での工事遅れの影響を受けているものの、中長期での需要拡大の見通しに変更はない。また、xEV 向けも足元では欧州市場での成長が鈍化しているが市場拡大の大きな流れ自体は継続すると考えている。そのため、タイでの新規製造拠点の計画は予定に変更はない。

<ライフソリューション>

Q4：1Q で抗原迅速診断キットの販売が前年度より増加した背景と今後の見通しは？

A4：1Q はインフルエンザの検査需要が一部で続いていることに加え、新型コロナウイルスも第 11 波と言われる感染流行がある中、弊社ではフル生産の状況が続いている。2Q は販社が秋に向けて在庫確保に動き出すこともあり、引き続き、販売が堅調に推移し、想定並みとなることを見込む。

<エラストマー・インフラソリューション>

Q5：昨年度 4Q から今年度 1Q にかけて営業利益が 36 億円の増益となった背景は？

A5：クロロプレンゴムにおいて、需要の緩やかな回復と昨年度 4Q に発生した能登半島地震による影響の解消があったことに加え、セメントにおいて、昨年度に段階的に進捗した値上げ効果や原料の石炭価格下落による収支改善が主な要因。

Q6：ルイジアナ州環境品質局（LDEQ）が 2 年間の猶予期間を認めたが、その背景は？

A6：背景はわかっていない。DPE は LDEQ が 2 年間の猶予期間を許可したため、その有効性を確認するため、ルイジアナ州を管轄する第 5 巡回区連邦控訴裁判所に申立てしている。審理の予定は、はっきりしていない。

<ポリマーソリューション>

Q7：1Q は需要の回復傾向により営業利益が黒字化したが、過去の利益水準に比べると低い状況が続いており、今後どのように回復をさせていくのか？

A7：1Q は需要が回復傾向となり、下期にも緩やかな需要回復が続くと想定しているが、過去の利益水準まで戻る為には販売数量が全般的にもっと戻らないと難しい。そのため、供給能力の最適化など含め様々な検討をしている。

以上